

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	国際言語・文化学科	夜・通信	—	14	2	16	13	
	史学・文化財学科	夜・通信			2	16	13	
	人間関係学科	夜・通信			2	16	13	
食物栄養科学部	食物栄養学科	夜・通信		8	8	16	13	
	発酵食品学科	夜・通信		4	12	16	13	
国際経営学部	国際経営学科	夜・通信		12	4	16	13	
看護学部	看護学科	夜・通信	5	11	16	13		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学部ごとに実務経験のある教員等による授業科目名とその単位数を明示し、それらの合計単位を明示した一覧表を作成し、情報公開ホームページで公表する。 URL : https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/about/>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現) 民間企業 代表取締役社長	R7.6.25～ R11.6月定時 評議員会	経営・教学・コンプ ライアンス
非常勤	(現) 民間企業 特別顧問	R7.6.25～ R11.6月定時 評議員会	経営・教学・コンプ ライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 本学では、教務委員会が作成する「シラバス作成の手引」に基づき、各授業担当教員がシラバスを作成している。作成されたシラバスは、各学科の教務委員による点検・確認を経て内容の適切性を担保している。 シラバスには、授業概要、到達目標、授業計画、履修条件及び関連科目、使用教科書、成績評価方法及び評価割合、評価基準、学習相談の方法、学習成果に対するフィードバックの方法、法令等で定められた授業科目に含めるべき事項、学生へのメッセージ、ナンバリング等を記載している。また、実務経験のある教員による授業科目については、その実務経験の内容を明記している。 なお、授業の方法(講義、演習、実験、実習等の別)については、学生に配布する開講科目一覧において明示している。 ・授業計画書の作成・公表時期 シラバスは毎年度3月末までに作成・点検を完了し、新年度開始前までに公表している。 	
授業計画書の公表方法	<p>授業計画書(シラバス)は、本学ポータルサイト及び履修登録システムを通じて学生に公表するとともに、大学ホームページの情報公開ページにおいて公表している。 https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況

各授業科目における成績評価は、シラバスに明示した到達目標、評価方法、評価基準及び評価割合に基づき実施している。試験、レポート、課題提出、発表、実技等の適切な方法により学修成果を評価し、学科履修規程に基づき厳格かつ適正に成績評価を行った上で、単位授与又は履修認定を行っている。

・学修意欲の把握

学生の学修意欲及び学修状況については、担任教員による年2回の個別面談を通じて把握している。面談では、成績通知書を基に学業成績や履修状況を確認するとともに、学生生活の状況や今後の学修目標等についても聞き取りを行い、その内容をポートフォリオシステムに記録している。これらの取組を通じて、学生一人ひとりの学修意欲及び学修状況の把握に努めている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・GPA等の客観的な指標の具体的内容(指標の算出方法など)

「別府大学におけるGPA制度の取扱いに関する規程」を定め、その算出方法等について学生に周知している。また、各学生のGPA値については、成績通知書により学生及び保護者に通知している。

・客観的な指標の適切な実施状況

「別府大学におけるGPA制度の取扱いに関する規程」に基づき、GPAを適切に算出している。

また、科目GPAによる成績分布表(別紙1)及び科目GPによる科目別成績概要を作成し、学部ごとに成績分布状況の把握を行っている。さらに、各学科において成績分布の検証を行うとともに、大学企画運営会議において教育課程及び教育プログラムの成果の検証を行っている。

なお、学部ごとの科目GPによる成績分布表については、掲示板により学生へ周知している。

別府大学におけるGPA制度の取扱いに関する規程

(目的)

第1条 この規程は、別府大学(以下「本学」という。)における成績評価を係数(Grade Point)(以下「GP」という。)で表し、取得したGPの平均値による学業評価指数(Grade Point Average)(以下「GPA」という。)制度によって、学生の学修指導等に資することを目的とする。

(成績評価とGP)

第2条 本学学則(以下「学則」という。)第31条に基づく各学部の学科履修規程第14条に定める成績の点数に与えるGPの計算は、次によるものとする。

2 GPは、当該授業科目の成績点から55を控除して得た点数を10で除した値とし、その計算式は、次のとおりとする。

$$GP = (\text{成績点} - 55) / 10$$

3 成績標語、成績点に対応するGPは、次の表のとおりとする。

成績標語	成績点	GP
AA	90～100	3.5～4.5
A	80～89	2.5～3.4
B	70～79	1.5～2.4
C	60～69	0.5～1.4
F	0～59	0.0
欠席	—	0.0
失格	—	0.0

4 再試験を受験して「C」の評価を得た場合は、そのGPで計算する。

5 一つの授業科目の一旦取得した評価を上位の評価に差し替えるために再履修し、上位の評価を取得できた場合は、上位のGPを適用できる。ただし、上位の評価を取得できなかった場合は、元評価のGPとする。

(GPAを算出する授業科目)

第3条 GPAを算出する授業科目は、学則第26条第6項別表第1に規定している授業科目で、学生が履修登録した授業科目とする。

2 GPAから除外する授業科目

- (1) 編入学、再入学、転入学又は転学部・学科した際に単位認定した授業科目
- (2) 学則第32条に規定する入学前の既修得単位として単位認定した授業科目
- (3) 学則第33条に規定する他の大学等において履修した授業科目
- (4) 学則第34条に規定する大学以外の教育施設等における学修で単位認定した授業科目

(GPAの算出方法)

第4条 GPAは、学期ごとに算出する「学期GPA」及び卒業（修了）時に算出する「通算GPA」とする。

2 学期GPA及び通算GPAの計算は、次による。

- (1) 学期GPAは、当該学期で得た取得点の合計を当該学期で履修登録した単位数の合計で除して得た数値とする。

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{取得点の合計}}{\text{履修登録した単位数の合計}}$$

- (2) 通算GPAは、各学期で得た取得点の総和を各学期で履修登録した単位数の総和で除して得た数値とする。

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{各学期で得た取得点の総和}}{\text{各学期で履修登録した単位数の総和}}$$

3 取得点は、当該授業科目の評価で得たGPを当該授業科目の単位数を乗じて得た数値とする。

(学修指導の目安)

第5条 学生のGPAによって次の目安を参考にして学修等の指導を行う。

GPA	評価の状況	学修の状態
3.01 ~ 4.50	AA～A評価を平均的に修得	授業科目の内容を良く理解しており、試験において優れた成績を修めている。非常に優秀。特に問題はない。
2.01 ~ 3.00	A～B評価を平均的に修得	授業科目の内容を標準的なレベルで理解しており、試験において標準的な成績を修めている。 問題はないが、学期ごとに下がっている場合は注意が必要である。
1.01 ~ 2.00	B～C評価を平均的に修得	授業科目の内容は理解でき、試験において合格と認められる低いレベルの成績を修めている。 本人の学修姿勢によっては、急激に不合格科目が増えることもあるので、注意が必要。
0.50 ~ 1.00	不合格科目、失格、欠席が多い	授業科目の内容は理解できているが、試験において最低限度の成績を修めている。 学習面、生活面で問題を抱えている場合が多く、学修状況や生活面での指導が必要になる。
0.5 未満	不合格科目、失格、欠席が特に多い	授業科目の内容の理解が乏しく、多くの試験において最低限度の成績を修めていない。 学習面、生活面で問題を抱えており、学修状況での継続的な学修指導や生活面での指導が必要になる。

(履修取消)

第6条 第3条第1項に定める授業科目で履修登録した授業科目について履修の取り消しを希望する場合は、履修変更期間とは別に定める当該学期の所定の期間内に所定の申請書を教務課に提出しなければならない。ただし、この場合において取り消した科目とは別の科目を履修登録することはできない。

2 履修取り消しのない授業科目は、GPAの対象科目とする。

(GPAの学生への通知)

第7条 GPAの学生への通知は、成績通知書によって行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、GP及びGPAの取扱いに関する必要な事項は別に定める。

附 則

1. この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2. この規程は、平成30年9月11日から施行し、平成30年9月11日に在籍する学生から適用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページの情報公開ページにおいて公表している。
<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）を学科ごとに定め、公表するとともに、必要に応じて見直しを行っている。

同方針については、「学生生活」等の学生便覧に掲載して学生へ周知するとともに、カリキュラム・マップを作成し、各授業科目との関連を明示している。また、シラバスにおいて到達目標との関連を示し、学修の指針として周知している。

卒業認定に当たっては、ディプロマ・ポリシー及び学則・学科履修規程に定める卒業要件に基づき、修得単位数及び学修成果を確認した上で、適切に認定している。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・学修成果の目標）

文学部 国際言語・文化学科

国際言語・文化学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義> 文学や芸術のもつ社会的な意義や、文学や芸術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> 文学や芸術の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に日本語・日本文学コースは日本語力及び文章力、英語・英米文学コースは英語力及び文章力、芸術表現コースは創造力及び作品制作能力を身につけている。

<専門に関する能力>

(1) 日本語・日本文学コース

① 上代から近現代にいたる日本文学の歴史、外国文学の影響、表現技法の特色などを古典や名著を精読して理解し、作家・作品研究の基礎を身につけている。

② 日本語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、日本語研究の基礎能力を身につけている。

(2) 英語・英米文学コース

① 英文を正確に記述し、会話できる能力を身につけている。

② 英語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、英語研究の基礎知識を身につけている。

③英米文学作品を精読し、英米文学の歴史、文化、作家等を深く理解し、考察できる。

(3) 芸術表現コース

①芸術表現、言語や文化についての幅広い知識を修得し、芸術的思考と文化の理解および分析能力を身につけている。

②マンガ、デザイン、映像・アニメーション、絵画の作品を創作する知識・技能を修得する。

(4) コース共通

①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究や制作を行い、論文や作品にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

文学部 史学・文化財学科

史学・文化財学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞歴史学、文化財科学のもつ社会的な意義や、歴史学、文化財学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞歴史学、文化財学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に資料を収集し分析する能力、観察力、洞察力、判断力、表現力、実践力を身につけている。

＜専門に関する能力＞

(1) 日本史・アーカイブズコース

①日本史・アーカイブズ学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。

②日本史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(2) 世界史コース

①世界史の学修に必要な基礎的な知識を修得している。

②世界史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(3) 考古学・文化財科学コース

①考古学・文化財科学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。

②考古学・文化財科学の専門領域に関する深い知識を修め、調査や発掘、文化財の保存修復や科学分析等の技能を体験的に修得している。

(4) コース共通

①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

文学部 人間関係学科

人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義>心理や福祉のもつ社会的な意義や、心理や福祉を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力>心理や福祉の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特にコミュニケーション力、チームワーク力を身につけている。

<専門に関する能力>

(1) 領域の選択に応じて、社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの各専門分野の専門的な知識を修得し、現場での実践力を身につけている。

(2) 4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、卒業論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

食物栄養科学部 食物栄養学科

食物栄養学科は、本学の定める課程を修了し、「教養力」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

- (1) 大学教育に必要な基礎的素養を身につけ、また、本学の建学の理念や教育方針とともに、栄養学および健康科学を学修するための社会的意義を理解している。
- (2) 地域社会について、一つの分野に偏らずに、自然科学、社会科学および人文科学の融合した多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化、社会科学の理解、自然科学と情報の理解に必要な教養を身につけ、また、国際理解のための外国語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 食物学や栄養学を学ぶための基盤領域の分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

<社会的意義> 栄養学および健康科学のもつ社会的な意義や栄養学および健康科学を学ぶことによって人の生き方・暮らし方を選択する能力、社会の変化に対応して生活を組み立てる能力、次世代や他者の生活を支援する能力をもち、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養補給、食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力や健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> 栄養学および健康科学の専門教育を通して、特に食・栄養・健康にかかわる専門職業人として社会貢献する能力を身につけている。

(1) 社会・環境と健康の関係、健康の概念、保健・医療・福祉・介護システムについて、基礎的な知識を身につけている。

(2) 人体の構造と機能、環境変化に対する対応機能および疾病の成因、病態、診断、治療、生体防御について基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。

(3) 食品の栄養特性・物性と食品成分の人間生活・健康に与える影響および食品の加工・調理や食の安全性・衛生管理について理解し、それに関する実験の技能や調理・加工技術を身につけている。

(4) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割およびエネルギーや栄養素の代謝の生理的意義について理解し、それに関する実験の技能を身につけている。

(5) 発育・加齢や妊娠など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化と栄養アセスメント・栄養管理について理解し、それに関する実習技能を身につけている。

(6) 健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析および栄養教育計画の作成・実施・評価について理解し、行動科学やカウンセリングに関する実習技能を身につけている。

(7) 傷病者・クライアントの病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、栄養管理プロセス(栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングと評価)について理解し、傷病者・クライアントの栄養指導に関する実習技能を身につけている。

(8) 国や地域社会の健康・栄養問題や政策および活動、関連要因の情報収集・課題分析について学び、公衆栄養活動に計画立案・実施・評価等について理解し、それに関する実習・演習技能を身につけている。

(9) 給食運営および物資や人材の資源の利用方法を学び、栄養面・衛生面・安全面・経営面の管理について理解し、総合的マネジメントに関する実習技能を身につけている。

(10) 専門基礎分野と専門分野を横断した栄養学および健康科学について理解し、それらを活用できる総合的な能力を身につけている。

(11) 管理栄養士の活動の場での栄養評価・栄養管理を行うために必要な知識と技術および関連職種との連携を理解し、それらを行うために技術を臨地校外実習で身につけている。

(12) 実践的な活動の場での課題の発見と解決を通して、卒後に栄養士・管理栄養士として必要な知識・技能を理解し、演習を通じて身につけている。

3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を修得している。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を修得している。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナーや振る舞いを身につけるとともに、豊かなコミュニケーション力を修得している。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を修得している。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

食物栄養科学部 発酵食品学科

発酵食品学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（食物バイオ学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や運動と健康、英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義> バイオサイエンスのもつ社会的な意義や、バイオサイエンスを学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> バイオサイエンスの専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に研究開発及び衛生管理の能力を身につけている。

<専門に関する能力>

(1) コース共通

- ① 発酵食品学科の学修に必要な基礎的知識を取得している。
- ② 発酵食品学科の専門領域に関する深い知識を修め、それらを応用できる能力を身につけている。また、それらに関する実験の技能を身につけている。
- ③ 就職活動に必要な能力および校外実習を通じ、自身の進路について理解を深め、将来の目標をたてる能力を身につけている。
- ④ 4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、卒業論文にまとめることができる。

(2) 発酵食品コース

- ① 発酵食品コースの学修に必要な基礎的知識を取得している。
- ② 醸造、食品、バイオサイエンス、バイオテクノロジーなどの発酵食品コースの専門領域に関する深い知識を修め、それらを応用できる能力を身につけている。また、発酵食品に関する製造の技術、バイオテクノロジーに関する実験の技能を身につけている。

(3) 食品流通コース

- ① 食品流通コースの学修に必要な基礎的知識を取得している。
- ② 食品の生産、流通、経営、衛生などの食品流通コースの専門領域に関する深い知識を修め、それらの知識の活用を図る能力を身につけている。

(4) 食品香料コース

- ① 食品香料コースの学修に必要な基礎的知識を取得している。
- ② 食品香料や香粧品に含まれる香り成分およびデータ解析手法など、食品香料コースの専門領域に関する深い知識を修め、それらに関する実験の技能を身につけている。

3. 汎用力 (社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

国債経営学部 国際経営学科

国際経営学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(経営学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義> 経営学のもつ社会的な意義や、経営学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力> 経営学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に経営管理及び情報処理の能力を身につけている。

(1) 経営学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(2) 経済学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(3) 会計学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(4) 観光・地域経営についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(5) 経営に関連した法律についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(6) 経営に関連した国際関係の基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

(7) 経営に関連した情報システムについての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

看護学部 看護学科

生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と倫理観、確かな看護の専門的知識・実践力を有し、時代や社会の変化に伴う地域社会の健康課題について、多職種連携のもと自律的に行動できる人材、あわせて、自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与できる人材を養成する。

看護・医療・保健・福祉に関する学問を修め、教養及び専門に関する所定の単位を修得し、以下に掲げた能力を身につけたと認められる者に学位（看護学）を授与する。

DP1. 全人的な人間理解と尊厳及び権利擁護の態度と探求心を持ち、広い視野で物事を多角的にとらえる姿勢が身についている。

DP2. 看護活動に必要なコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーが身についている。

DP3. 様々な健康レベルにある対象の生活、健康状態を判断する専門的知識が身についている。

DP4. 看護の本質を理解し、その人らしい生活を支援する援助的人間関係に基づいた看護実践力が身についている。

DP5. チーム医療において多職種と連携・協働して、地域特性に応じた看護を実践する能力が身についている。

DP6. 看護専門職としての役割を理解し、グローバルな観点で専門性を発展させていこうとする姿勢及び自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与しようとする姿勢が身についている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページの情報公開ページにおいて公表している。

<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	別府大学ホームページ https://www.beppu-.ac.jp/general/academy/financial-report/
収支計算書又は損益計算書	別府大学ホームページ https://www.beppu-.ac.jp/general/academy/financial-report/
財産目録	別府大学ホームページ https://www.beppu-.ac.jp/general/academy/financial-report/
事業報告書	別府大学ホームページ https://www.beppu-.ac.jp/general/academy/financial-report/
監事による監査報告(書)	別府大学ホームページ https://www.beppu-.ac.jp/general/academy/financial-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和8年度事業計画 対象年度:令和8年度)
公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
中長期計画(名称:学校法人別府大学中期計画 対象年度:令和4年度~8年度)
公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部 国際言語・文化学科
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) 「日本語・日本文学コース」、「英語・英米文学コース」、「芸術表現コース」において、言語、文化、文学、芸術表現・理論に関する専門的知識と技能を備え、総合的な視点から諸問題に対応できる広い視野あるいは国際的な視点をもった人材、教員や図書館司書のような、地域教育・学術文化を担う人材、あるいは将来研究者を目指す人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) 国際言語・文化学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(文学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) 国際言語・文化学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分(科目群)を設け、その科目区分(科目群)に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義+演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) ○学科教育の特色と育成する人材像 国際言語・文化学科には、「日本語・日本文学コース」、「英語・英米文学コース」、「芸術表現コース」という3つのコースがあり、学生は3つのコースから自らの関心に基づいて自由にコースを選び、そして他のコースをも副コースとして選択して学修することができます。また本学科では、国語、英語、美術の教職免許と、図書館司書・学芸員の資格が取得できます。 本学科は、文学・言語・芸術の分野について十分な専門的知識と技能を備え、広い視野から諸問題に対応できる人材、教員や図書館司書のような、将来地域教育・学術文化を担う人材、あるいは将来研究者を目指す人材を育成することを目的とします。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●国語、英語、美術のいずれかについて基礎的な知識・技能を修得していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること

<p>●言語・文学・美術に対する関心と意欲を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか</p> <p>●国語、英語、美術のいずれかに関する知識・技能の力と、それを活用していく思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力・実技審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。</p> <p>●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。</p> <p>●言語・文学・美術に対する関心と意欲を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。</p>

<p>学部等名 文学部 史学・文化財学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）「世界史コース」、「日本史・アーカイブズコース」、「考古学・文化財科学コース」の3つの分野において、総合的な視点から諸問題に対応できる広い視野をもった人材、教員や学芸員のような、教育や地域文化の継承を担う人材、また将来研究者を目指す人材を育成することを目的とする。あわせて習得した知識や技術、経験を活かして社会で柔軟に対応できる人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）史学・文化財学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）史学・文化財学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分（科目群）を設け、その科目区分（科目群）に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）○学科教育の特色と育成する人材像 史学・文化財学科には、「日本史・アーカイブズコース」「世界史コース」「考古学・文化財科学コース」という3つのコースがあり、学生はこの3つのコースから自らの興味・関心に基づいて主コースを選択します。さらに、主コース以外にも興味・関心のあるコースを副コースとして選択して学修することができるため、すべての領域にわたって複数のコースの専門的学問を修得することができます。また、本学科では、中学校社会・高等学校地理歴史及び公民の教職免許、学芸員資格、司書資格、司書教諭資格、文書館専門職（ア</p>

<p>ーキビスト) 修了証を取得できます。</p> <p>史学・文化財学科では、歴史や文化財について広く深く学び、学修した知識・技能を応用して社会に貢献できる人材、また本学科で取得可能な上記の諸資格を活かしてそれぞれの専門分野で活躍できる人材を育成することを目指します。</p> <p>このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。</p> <p>○入学者に求める能力・資質は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史や地理についての基礎的な知識・技能を修得していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●歴史への深い関心を有していること <p>○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●世界史・日本史・地理に関する知識・技能の力、及びそれを活用して自ら積極的に考察しそれを分かりやすく伝えることができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動(部活やボランティアなど)における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●歴史への深い関心を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

<p>学部等名 文学部 人間関係学科</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法:大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>(概要) 福祉、心理学、生涯教育(スポーツ分野)に関する「社会福祉領域」、「心理領域」、「教育・生涯スポーツ領域」において、学際的観点に立ち、これらの諸問題を理論的かつ実践的に解決できる人材、公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士・教員・認定心理士などの資格を取得し、地域社会の活性化あるいは再生を担うことができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針(公表方法:大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>(概要) 人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(文学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>(概要) 人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(文学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>
<p>（概要）○学科教育の特色と養成する人材像 人間関係学科では、社会福祉、心理、教育・生涯スポーツ分野に関する「社会福祉領域」、 「心理領域」、「教育・生涯スポーツ領域」において、学際的視点に立ち、これらの諸問 題を理論的かつ実践的に対応できる人材として社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・ 認定心理士・教員などの資格を取得し、地域社会の活性化あるいは再生を担うことができ る人材を養成することを目的とします。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能 力・資質を有し、目標にむけて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持 った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●社会福祉、心理、教育・生涯スポーツの各分野に関連する科目（国語および任意の1教科） についての基礎的知識・技能を修得しており、将来は人間関係学科で学んだことを用 いて地域社会に貢献したいという強い意欲を持っていること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●学校内外の活動に取り組む意欲と情熱を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか ●社会福祉、心理、教育・生涯スポーツ分野の基礎となる科目（国語および任意の1教科）、 および関連科目の知識・技能を活用し、入学後に自らの希望する専門性を十分に修得でき るだけの思考力・判断力・表現力を持っているか、また、身につけた知識・技能を適切に 表現できる国語力を持っているかを、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、 面接、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等により測定・評価し、その 結果を合否判定に用います。 ●主体的に学び、他者と協働して学問探求に臨む態度を、各選抜区分における口頭試問、 面接、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）等により測定・評価し、その結果を 合否判定に用います。 ●学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や、自分自身や周囲の 人間関係に関する問題点について考え、理解や解決を模索したなどの豊かな人間経験を持 ち、多様な学びをもとにさらに探求したいという意志を持っていることを、各選抜区分に おける口頭試問、面接、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等を基に評 価し、その結果を合否判定に用います。</p>

<p>学部等名 食物栄養科学部 食物栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>
<p>（概要）食と健康に関する実際に即した専門教育を施し、視野の広い社会観、人間観を涵 養することで、食と栄養を通して人びとの健康を守り、病気の予防や回復に貢献する、21 世紀の健康的な社会の構築に寄与できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>

(概要) 食物栄養学科は、本学の定める課程を修了し、「教養力」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：大学ホームページ
URL: <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

(概要) 食物栄養学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学習成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、管理栄養士学校指定規則第2条および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」をもとに、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学修すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：大学ホームページ
URL: <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

(概要) ○学科教育の特色と育成する人材像
食物栄養学科では、食・栄養・健康の分野に関する専門的知識・技術のみならず、必要な倫理観及び問題解決能力の備わった管理栄養士を育成することを目指します。本学科では、地域と提携した主体的・対話的学習(アクティブラーニング)を授業に取り入れており、学生の実践力を育むことで、食・栄養と健康に関する専門家として地域社会の発展に貢献できる人材を育てています。
このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。
○入学者に求める能力・資質は何か
●高等学校教育全科、その中でも国語・英語・理科・数学・情報などについての基礎的な知識・技能を修得していること
●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
●食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を有していること
○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか
●国語、英語、理科、数学、情報に関する知識・技能の力と、それらを活用して食・栄養・健康に関連する現象を思考・判断・表現する力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動(部活やボランティアなど)における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。
●食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

学部等名 食物栄養科学部 発酵食品学科

教育研究上の目的 (公表方法：大学ホームページ
URL: <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

<p>(概要) 「発酵食品コース」、「食品流通コース」、「食品香料コース」において、食とバイオサイエンスに関する専門教育を行う。さらに人間教育を中心とし、人格の陶冶に努め、地域社会ならびに国際社会の発展に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p>
<p>(概要) 発酵食品学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(食物バイオ学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p>
<p>(概要) 発酵食品学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p>
<p>(概要) ○学科教育の特色と育成する人材像 発酵食品学科には「発酵食品コース」、「食品流通コース」、「食品香料コース」の3つのコースがあり、それぞれ、醸造発酵学、食品流通、食品香料の分野についての基礎的・専門的知識を修得します。本学科は、発酵食品を含む新たな食の開発やバイオサイエンスの学修に向けての強い意欲と科学的探究心をもった、地域社会や国際社会で人々の「食とくらし」を支える人材の育成を目指します。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●高等学校で修得する理科と数学の基礎的な知識・技能を有していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●「食とくらし」やバイオサイエンスへの深い関心を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか ●理科と数学の知識・技能を基盤とし、それを活用して他者と課題解決に取り組むことができる思考力、判断力、表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、面接、口頭試問、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体的に学び、他者と協力して学問探究に臨む態度と学校内外の活動(部活やボランティアなど)における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書(エントリーシート)、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●「食とくらし」やバイオサイエンスへの深い関心を、各選抜区分における小論文、口頭</p>

試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等により評価し、その結果を合否判定に用います。

<p>学部等名 国際経営学部 国際経営学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）グローバル化かつ多様化した現代社会において、特に地域的、経済的、社会文化的にクロッシング・ボーダー化した領域において活躍できる経営能力を身につけた人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）国際経営学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（経営学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）国際経営学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果の目標（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果の目標（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義+アクティブラーニングの構成により、理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)</p> <p>（概要）○学科教育の特色と育成する人材像 国際経営学科には「国際経営コース」、「会計・税理士コース」、「観光・地域経営コース」の3つのコースがあり、それぞれ経営、会計・税務、観光・地域経営分野について、経営管理能力、情報処理能力を含む専門的知識を修得します。そしてこれらを活用し地域の発展のために貢献できる人材を育成することを教育目標とします。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●主に社会科学系の科目において、グローバルな視点から地域を考えるための基礎的な知識・技能を修得していること ●目まぐるしい時代の変化に対応するために、自ら問題の解を見いだしていく思考力・判</p>

<p>断力・表現力を有していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を有していること <p>○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公民、国語、情報、商業に属する科目に関する基礎知識を活用して、課題を発見し解決することができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体的に学び、他者と協働して学問探究に臨む態度と学校内外の活動（部活やボランティア、地方公共団体や地域の企業・団体と連携し活動した経験など）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における取得資格・免許、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、自己申告書（エントリーシート）、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

<p>学部等名 看護学部 看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>
<p>（概要）健康と生活に深くかかわる看護専門職として、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と倫理観、確かな看護の専門的知識・実践力を有し、時代や社会の変化に伴う地域社会の健康課題について、多職種連携のもと自律的に行動できる人材、あわせて、自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与できる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>
<p>（概要）生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性と倫理観、確かな看護の専門的知識・実践力を有し、時代や社会の変化に伴う地域社会の健康課題について、多職種連携のもと自律的に行動できる人材、あわせて、自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与できる人材を養成する。</p> <p>看護・医療・保健・福祉に関する学問を修め、教養及び専門に関する所定の単位を修得し、以下に掲げた能力を身につけたと認められる者に学位（看護学）を授与する。</p> <p>DP1. 全人的な人間理解と尊厳及び権利擁護の態度と探求心をもち、広い視野で物事を多角的にとらえる姿勢が身についている。</p> <p>DP2. 看護活動に必要なコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーが身についている。</p> <p>DP3. 様々な健康レベルにある対象の生活、健康状態を判断する専門的知識が身についている。</p> <p>DP4. 看護の本質を理解し、その人らしい生活を支援する援助的人間関係に基づいた看護実践力が身についている。</p> <p>DP5. チーム医療において多職種と連携・協働して、地域特性に応じた看護を実践する能力が身についている。</p> <p>DP6. 看護専門職としての役割を理解し、グローバルな観点で専門性を発展させていこうとする姿勢及び自己研鑽を続け、看護学の発展に寄与しようとする姿勢が身についている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）</p>

(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げる6つの能力を着実に修得させるために、教養教育、専門教育に関する授業科目を体系的・階層的に配置し、講義、演習、実習科目を適切に組み合わせた教育課程を編成する。学生が自立して自主的に学ぶ学修方法を身につけることを目標に、理論的かつ体験的に学修できるよう、下記のカリキュラム・ポリシーのもとに編成する。

CP1. 倫理観の醸成や人間愛への素地、論理的思考力を養うために、人間理解に関する科目と、リベラルアーツ関連科目を配置する。

CP2. 看護実践に必要な基礎的能力と、現代社会で生きるために必要な情報リテラシー等の基礎的能力を修得するために、教養科目を配置する。

CP3. 専門基礎科目に、対象を生活者として理解できるように、[生物学的人間理解] [疾病と回復過程の理解] [健康支援と社会保障制度]に関する科目を配置する。

CP4. 地域で生活する個人・家族・集団の多様な価値観を尊重し、各看護学領域に特有な対象理解と健康課題をとらえる力、課題解決のための援助理論と方法を学ぶ科目を配置する

CP5. 各看護学領域は、対象の状況に応じた看護実践力を修得するため、リフレクションにより知識・技術・態度を統合して学ぶシミュレーション教育を基本とした演習科目を配置する。

CP6. 各看護学領域は、学内演習の成果を多様な場で活用し、発展的・段階的に看護実践力を修得するために実習科目を配置する。

CP7. 地域で生活する個人・集団の健康課題を分析・抽出し、健康の維持増進のための継続的支援、協働、組織活動及び評価を実践する科目を配置する。

CP8. 対象の多様化、社会の変化に対応できる国際的視点を養い、看護を探究する思考や方法、自己の専門職としての成長と発展につながる科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL: <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

(概要) 本学部では、教育目的や教育目標を理解し、看護職を志向する明確な意志を持った学生を選抜する。このため、次のアドミッション・ポリシーを定め、入学者選抜を行う。

AP1. 生命や人権を大切にし、探求心と将来にわたり学び続ける姿勢を有していること

AP2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、ものごとを論理的に考える資質を有していること

AP3. 将来、看護師や保健師として地域の人々の健康のために役立ちたいという強い意志を有していること

AP4. 他人の意見を尊重し、他の職種の人とともに役割を果たす態度を有していること

AP5. 自分の考えを持ち、主体的に行動する態度を有していること

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ

URL: <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
文学部	—	25人	15人	5人	1人	0人	46人
食物栄養科学部	—	15人	2人	2人	0人	0人	19人
国際経営学部	—	11人	2人	2人	0人	0人	15人
看護学部	—	7人	3人	6人	8人	2人	26人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		150人					150人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会を設置し、FDに関する事項について企画・審議を行っている。委員会では、①授業内容及び授業方法等の自己点検・改善、②カリキュラム及びシラバスの改善、③授業評価に関する事項等について継続的に取り組んでいる。 また、教員の教育力向上及び教育の質保証を目的として、年間10回以上のFD活動を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	250人	244人	97.6%	1040人	1015人	97.6%	0人	4人
食物栄養科学部	100人	69人	69%	464人	328人	70.7%	7人	5人
国際経営学部	100人	131人	131%	400人	438人	109.5%	0人	7人
看護学部	80人	82人	102.5%	160人	165人	103.1%	0人	0人
合計	530人	526人	99.2%	2064人	1946人	94.3%	7人	16人
(備考) 文学部の入学定員を令和7年度に270から250に変更。食物栄養科学部の入学定員を令和7年度に120から110に、令和8年度に110から100に変更。								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	241人 (100%)	16人 (6.6%)	191人 (79.2%)	34人 (14.1%)
食物栄養科学部	123人 (100%)	6人 (4.9%)	112人 (91.0%)	5人 (4.1%)
国際経営学部	94人 (100%)	0人 (0%)	79人 (84.0%)	15人 (16.0%)

合計	458人 (100%)	22人 (4.8%)	382人 (83.4%)	54人 (11.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大分県庁、全日本空輸(株)、大分県警察本部、日清医療食品(株)、(株)大分銀行				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	259人 (100%)	215人 (83.0%)	12人 (4.6%)	25人 (9.7%)	7人 (2.7%)
食物栄養科学部	128人 (100%)	110人 (85.9%)	3人 (2.3%)	13人 (10.2%)	2人 (1.6%)
国際経営学部	97人 (100%)	78人 (80.4%)	3人 (3.1%)	14人 (14.4%)	2人 (2.1%)
合計	484人 (100%)	403人 (83.3%)	18人 (3.7%)	52人 (10.7%)	11人 (2.3%)

(備考) 中途退学者数には除籍を含む。入学者数の中から編入学生の数は除く。入学後に転学部をした学生については、転入先の学部の入学者として計上。休学等による在学年数不足の学生は留年ではなく「その他」に計上。

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) シラバスには、授業概要、到達目標、授業計画、履修条件及び関連科目、使用教科書、成績評価方法及び評価割合、評価基準、学習相談の方法、学習成果に対するフィードバックの方法、法令等で定められた授業科目に含めるべき事項、学生へのメッセージ、ナンバリング等を記載している。また、実務経験のある教員による授業科目については、その実務経験の内容を明記している。</p> <p>なお、授業の方法(講義、演習、実験、実習等の別)については、開講科目一覧を学生に配布し、明示している。</p> <p>また、年間の授業計画については、授業日程及び学校行事等を掲載した学年暦を毎年度3月末までに作成し、4月初旬に学生へ配布している。あわせて、その内容の一部については、大学ホームページ及びポータルサイトを通じて公表している。</p>
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 各授業科目における成績評価は、シラバスに明示した評価方法、評価基準及び評価割合に基づき実施している。学修成果については、試験、レポート、課題提出、発表、実技等の適切な方法により評価し、学科履修規程に基づき厳格かつ適正に成績評価を行った上で、単位授与又は履修認定を行っている。</p> <p>また、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)(別紙3)を学科ごとに定め、必要に応じて見直しを行っている。同方針については、「学生生活」等の学生便覧に掲載して周知するとともに、カリキュラム・マップを作成し、シラバスにおいて各授業科目との関連を明示している。</p> <p>卒業認定に当たっては、ディプロマ・ポリシー及び学則・学科履修規程に定める卒業要件に基づき、修得単位数及び学修成果を確認した上で、適切に認定している。</p>

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国際言語・文化学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	史学・文化財学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	人間関係学科	124 単位	有	各学期 24 単位
食物栄養科学部	食物栄養学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	発酵食品学科	124 単位	有	各学期 24 単位
国際経営科学部	国際経営学科	124 単位	有	各学期 24 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学案内
 キャンパスガイド <https://www.beppu-u.ac.jp/research/institutions/beppucampus/>
<https://www.beppu-u.ac.jp/research/institutions/kamekawacampus/>
 キャンパスマップ
https://www.beppu-u.ac.jp/wp/wp-content/themes/beppu/file/publicinformation/Campus_Map.pdf
 学生生活等 <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	国際言語・ 文化学科	700,000 円	200,000 円	280,000 円	
	史学・文化 財学科				
	人間関係 学科				
食物栄養 学部	食物栄養 学科	840,000 円	200,000 円	320,000 円	
	発酵食品 学科				
国際経営 学部	国際経営 学科	700,000 円	200,000 円	280,000 円	
看護学部	看護学科	960,000 円	200,000 円	220,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、学生支援をさらに充実させるため、学生の質問や相談に応じる時間として、各教員が週 2 コマのオフィスアワーを設定している。オフィスアワーでは、原則として教員が研究室に在室し、科目選択や履修登録に関する相談をはじめ、授業内容に関する質問、学修方法、レポートの作成方法等について助言・指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、就職希望者に対する相談や企業・公務員・教員採用試験等に関する情報提供の場として、キャリア支援センターを常時開放しており、全学生が利用することができる。キャリアカウンセリングをはじめ、就職・進学に関する各種ガイダンスの実施、就職適性検査や公務員・教員採用試験対策の模擬試験の実施など、学生の進路選択及び就職活動を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室(健康相談室)に専任の職員 2 名(保健師、養護教諭)が常駐し、学生の怪我、体調不良などへの対応、医療機関との連携、健康相談・保健指導を行っている。学生支援センター(学生相談室)には常勤のコーディネーター(臨床心理士・公認心理師の有資格者) 1 名と非常勤のカウンセラー(有資格者) 7 名を配置して、週 5 日間の相談体制を整えている。年度初めに全学生を対象にメンタルヘルス・チェック・アンケートを実施し「呼び出し面接」を行うなど、困りごとを抱える学生を早期に把握して、必要な支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学案内で公表予定、大学ホームページで公表予定 URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F144310111441
学校名 (〇〇大学 等)	別府大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人別府大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		553人（309）人	541人（294）人	566人（321）人
内 訳	第Ⅰ区分	191人	176人	
	（うち多子世帯）	（ 57人）	（ 46人）	
	第Ⅱ区分	79人	87人	
	（うち多子世帯）	（ ー）	（ 11人）	
	第Ⅲ区分	56人	53人	
	（うち多子世帯）	（ ー）	（ 12人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	79人	76人	
	区分外（多子世帯）	148人	149人	
家計急変による 支援対象者（年間）				—
合計（年間）				566人（321）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	22人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	35人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	—	前半期	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	—	人	人
GPA等が下位4分の1	45人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	49人	人	人
計	66人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。